

「土砂災害の恐ろしさと防災対策」

滋賀県 滋賀県立守山中学校 3年 駒井 福^{こまい さき}

この夏、全国各地で大雨による土砂災害のニュースを何度も見ました。茶色く濁った土砂が斜面にでき、今にも住宅地へ流れ込んでいきそうな映像や写真。また学校の授業で避難所で不安そうに座る人たちの映像を見たこともあります。テレビ越し、画面越しでも、その恐ろしさや被害の大きさが伝わってきました。実際に、その場にいたらどれほど怖いだろうかと想像すると、胸が苦しくなりました。

私は滋賀県に住んでいます。滋賀県は琵琶湖が有名であり山などに関するイメージはないと思います。それに、私の住んでいる地域では大きな山崩れや土石流の被害を聞くことはほとんどありません。正直なところ、これまで土砂災害はあまり関係のないことだと思っていました。実際、学校の避難訓練やニュースで結びつけて考えることはあまりありませんでした。しかし、最近のニュースを見て、考えが変わりました。土砂災害は山の近くや川沿いだけで起こるのではなく、予想外の場所でも発生することがあるということを知ったからです。実際、全国の被害状況を調べてみると、これまで土砂災害が少なかった地域でも、大雨によって斜面が崩れたり、川が氾濫したりする事例が増えているそうです。地球温暖化の影響で、これまでの経験や記録だけでは予測できない雨が降る時代になっているのだと思いました。経験がないからこそ私は土砂災害が怖いです。実際にどのように起こるのかを体験したことがないので、避難のタイミングや、もし起こったときの安全な行動がわかりません。避難情報が出て、まだ大丈夫なのではないかと思ってしまい、逃げ遅れるかもしれないという不安があります。ニュースで被害にあった人の多くが、まさか自分の家が危険になるとは思わなかったと話していましたが、その気持ちが少しわかる気がします。また、実際に被害を受けた地域の映像を見ると、家が崩れていたり、道が通れなくなっていたり、自然の力の大きさを改めて感じました。

このまま何も対策をしないで行くのは危険だと感じ、昨年から家族で防災対策をすることにしました。まず、もし災害が起こったときに避難する場所を決めました。平日の午前中は特に家族の全員が違う場所にいるので集まる場所や家族が一旦避難する場所を共有しました。次に、雨の日などに危ない川沿いの道なども共有しました。そのときに、道によっては雨で滑りそうところや段差が危ない場所などもあり、それも共有しました。そして、避難場所への一番安全なルートも決めておきました。さらに、非常用の防災グッズも用意しました。水や食料、懐中電灯、モバイルバッテリーなどを揃えました。また、防災グッズは一度揃えたら、それで終わりではありません。賞味期限が切れたり生活環境が変わり必要な物が増えたりもします。防災グッズの中身を定期的に確認することも大切だと思いました。こうした準備をしてみると、少し安心感が生まれました。同時に、自分の地域は安全だから大丈夫という思い込みが一番危ないのだとわかりました。災害は、いつ、どこで、どんな形で起こるかわかりません。だからこそ、経験がない地域に住んでいる人こそ、しっかりと備えることが大切だと思います。

これからもニュースや天気予報を注意して見て、雨が強く降る予報が出たら早めに行動するようにしたいです。家族、身の周りの人の命を守るためにできることを考え、準備を続けていきたいです。そして、この気持ちを友達や地域の人たちにも伝えていきたいです。土砂災害の被害にあう人が一人でも減るように、私たち一人ひとりが意識を持って行動していくことが必要だと強く感じています。そのために日頃から防災に関する情報を集めたり、訓練に参加したりなど些細なことも忘れずに取り組むようにしたいです。災害は防ぐことができませんが、私たちの工夫次第で被害を小さくすることはできると思います。少しずつ今からできることを実行するようにしたいです。